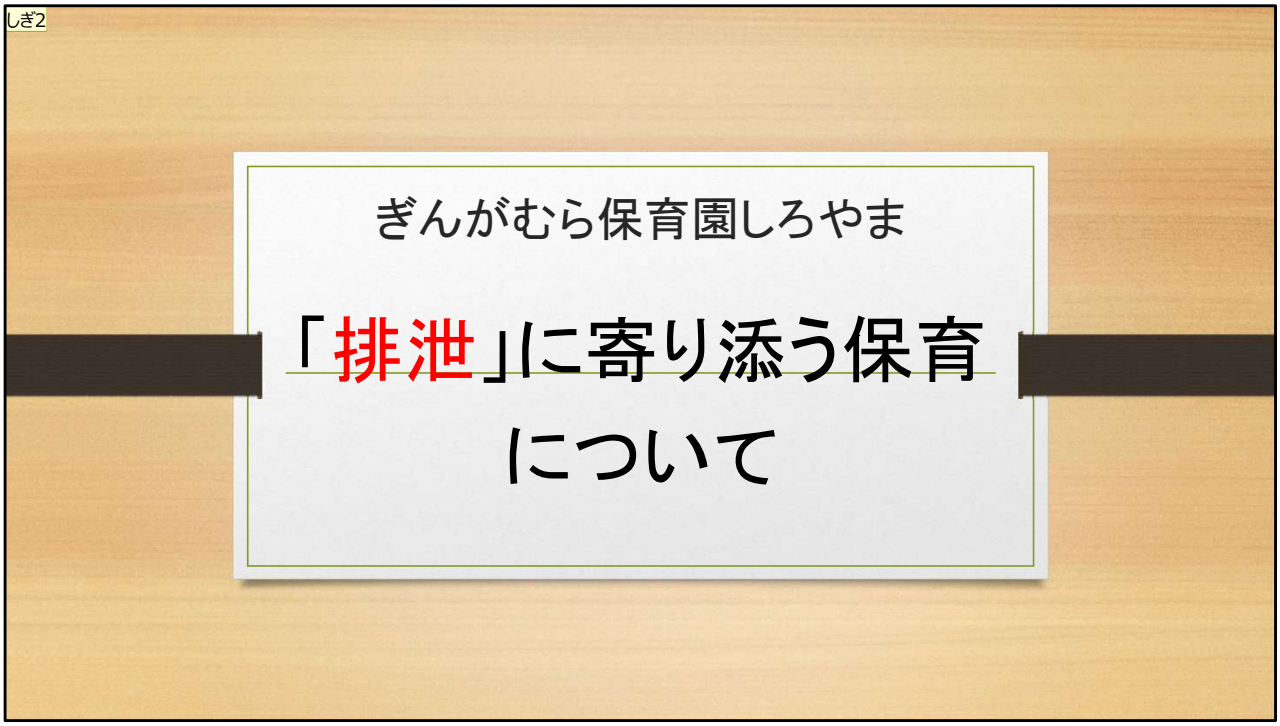
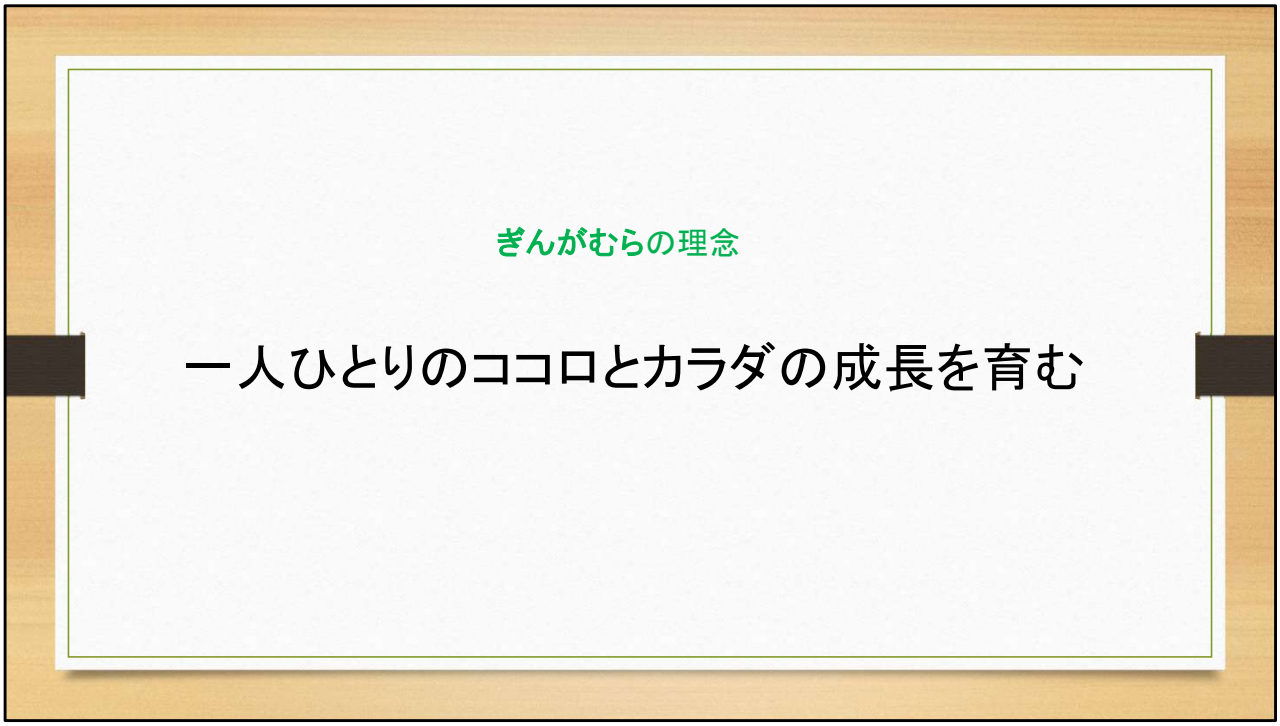


これから、ぎんがむら保育園で大切にしている“「排泄」に寄り添う保育”についてのお話をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

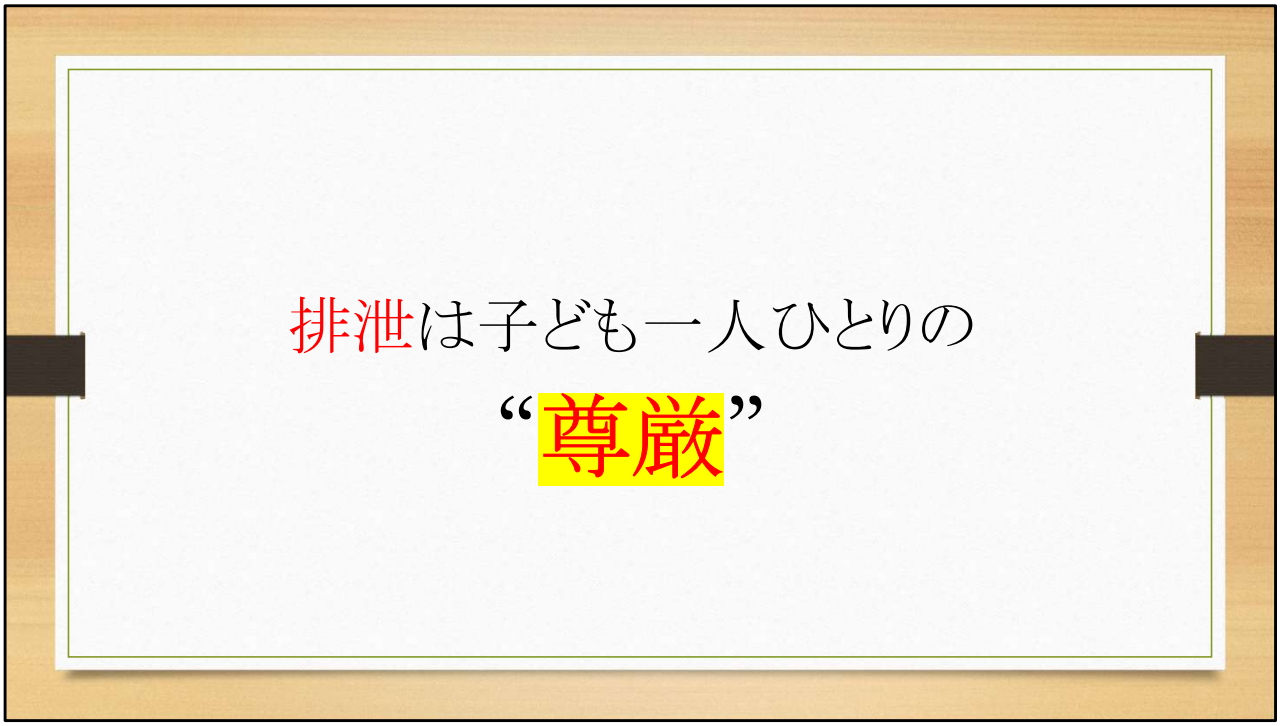
スライド 1

しぎ2　しろやま ぎんがむら保育園, 2024/04/03

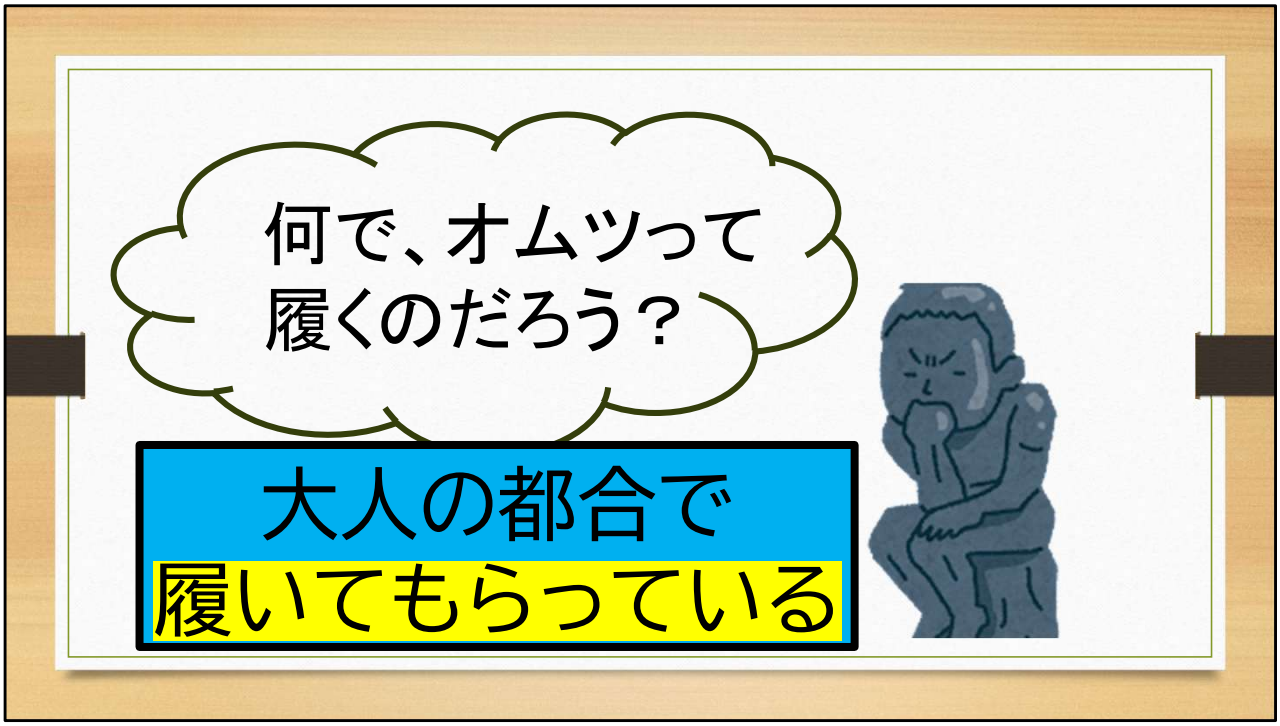


私達、保育士は、ぎんがむらの理念「一人ひとりのココロとカラダの成長を育む」に沿って、子ども達が“ありのまま”過ごせるよう保育してきました。

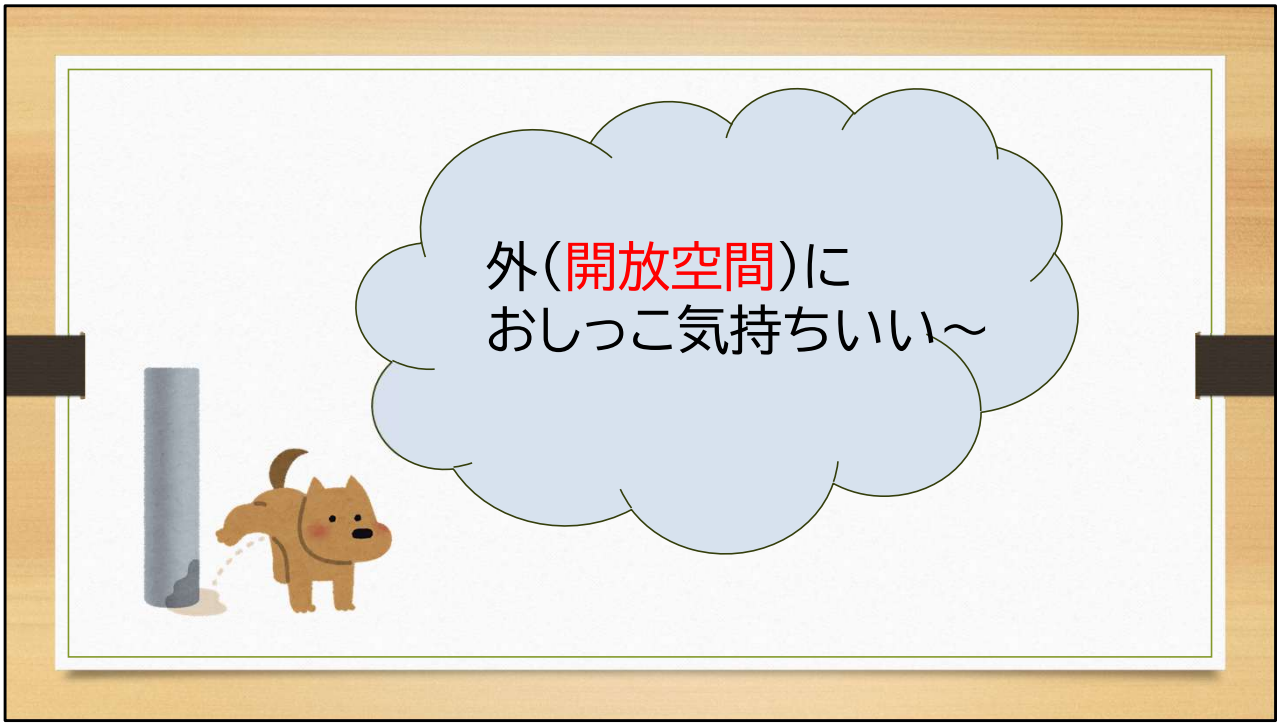
特に「あそび」でのありのままに寄り添ってきましたよ。そして、以前、おむつなし育児というものを勉強する機会があり、講師の方がこんなことをおっしゃっていました。



排泄は子ども一人ひとりの尊厳。ぎんがむらでは、遊びだけではなく排泄にも寄り添っていきたいと思いました。



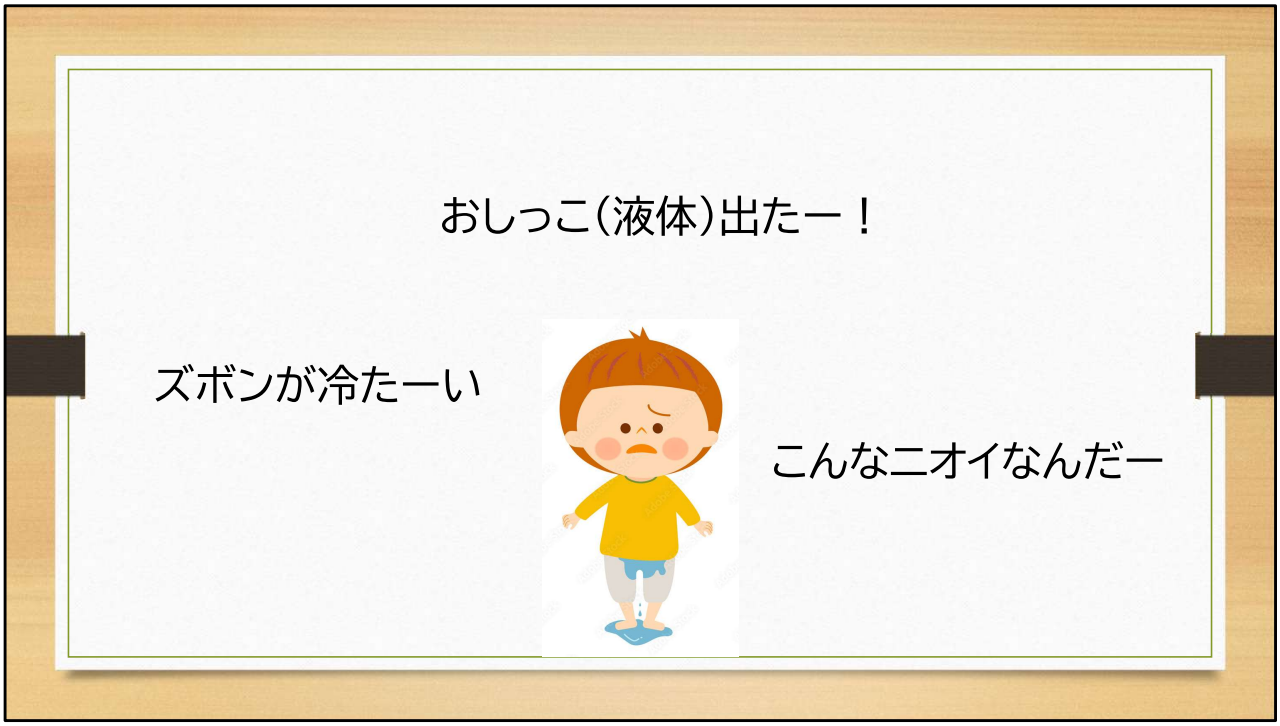
まず、皆さん。子ども達は何でオムツを履くのでしょうか？（誰かに聞いてみる）オムツは大人の都合で履いてもらっているのです。もらっているを強調しましたがどういうことでしょう…



犬などの動物達はオムツをせず、そのまま外におしっこをしますよね？オムツに覆われていない、この外を開放空間と言って、本来動物はこの開放空間でおしっこをします。新生児の時のオムツ替え、オムツを開けたらおしっこをされた経験はありませんか？あれはオムツで覆われたものが取れたことが気持ちよくておしっこが噴水されます。子どもって本来は開放空間に排泄が出来るんですよ！

ですが、本来開放空間でおしっこが出来ていた子ども達は、ママをママと認識する事と一緒で「あ、人間ってオムツでおしっこするんだ〜」と、オムツを履かないとおしっこ出来ない感覚を覚えてしまうようです。なので、前の前のスライドでもお伝えしたように、子ども達にはオムツを履いてもらっているのです。

子ども達は、普段から五感で得た刺激でいろんなことを学びます。例えば、この玩具を口に入れたり手で触りてどんな素材なんだろう感じる触覚、色や形を見る視覚、音を聞く聴覚などありますよね。



なので、排泄に寄り添う保育では、子ども達にこんなことを感じてほしいです。おしっこが出た感覚、ズボンが濡れる感覚、おしっこが出た音、液体の様子、おしっこのニオイなどです。

日々経験したことで、内臓機能が発達していきます。排尿間隔が長くなり、少しずつパンツでの生活も増え、おもらしも少なくなってきます。なので、ぎんがむらでは、これからのことをしています。

ここがポイント！！

NO！「トイトレ」

（トイレトレーニング）

ここがポイント！！②

- **トイレトレーニング**

＊“トイレ”**で排泄することが目的**

＊ネット日く**2歳半～3歳から**

＊“トイレ”・“オムツ外”排泄、“〇歳なんだから”**等でこじれやすい。**

- **排泄に寄り添う保育**

＊“オムツ外（開放空間）” **で排泄することが目的**

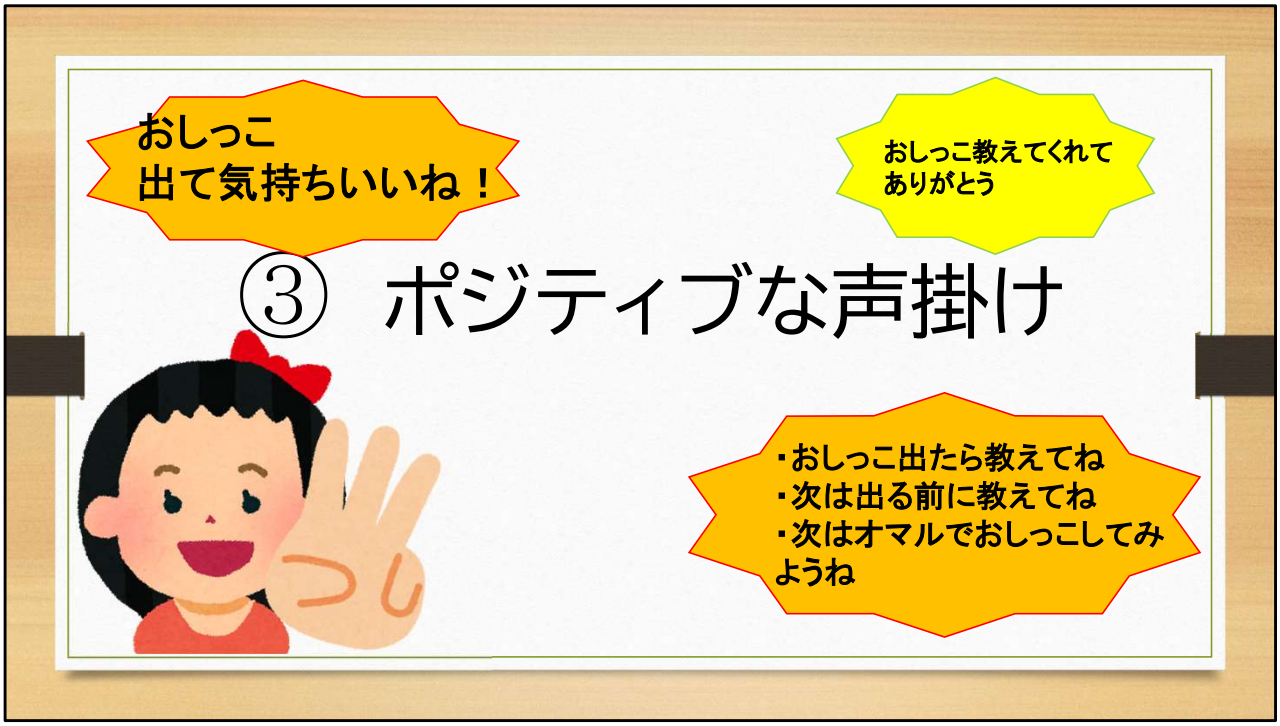
＊**場所は求めない。**

＊**赤ちゃんから始められる**

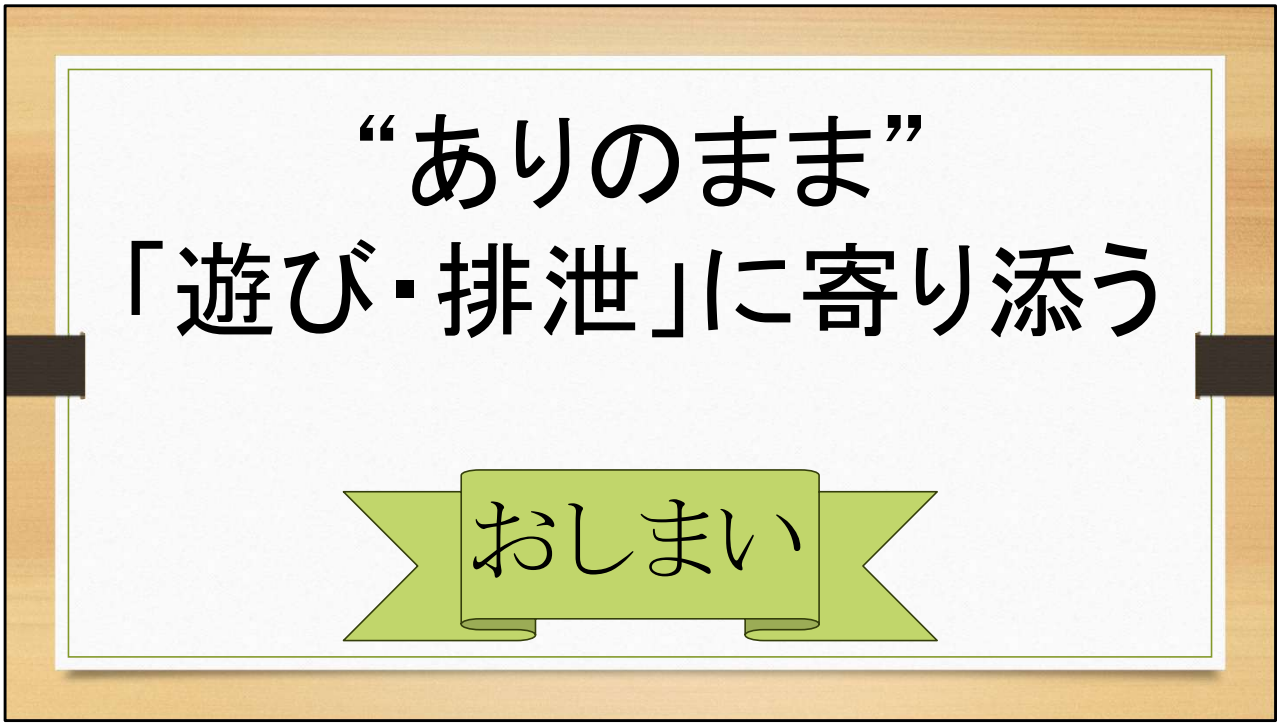
＊“トイレ”**は最終段階！**

◎オムツ外で排尿する感覚がそなわっていれば、言葉が伝わるようになると、自然とトイレで排尿しますよ😊

（画面読む）登録して下さったオムツを有効活用し、おしっこが濡れていたらすぐに交換することでオムツ内が清潔な時間を沢山作ります。濡れた感覚が少しでもわかるようにです。



（画面読む）おしっこが出ることが気持ちいいことを伝えていきます。その後に次に繋がる声掛けもします。子どもはお話が出来なくても、大人の話は聞いています。繰り返し伝えていると、いきなり実践してくれる日が訪れます。その際はありがとうを伝えるようにしていますよ。これは今日からお家でも実践出来ると思いますので、やってみてください♡



これから大切なお子さんのありのままに寄り添っていきたいと思います。長くなりましたが、聞いて下さりありがとうございました。